

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

ひかりの里

日付 平成 20年 7月 25日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「介護の仕事に自信がついてきたり慢心の気持ちが少しでも見えたら、終わりと言うか、危ないと思いますね。一人ひとり違うし、今日のAさんと明日のAさんは同じではない。その時のその人にしっかりと正面から向き合って、対等に裏表のないお付き合いできるスタッフがここに集まって来て、本当に嬉しい」と語る管理者の顔は、昨年の外部評価時よりずっと輝いていた。この喜びに共感するようにスタッフも「私の方こそ、利用者さんに癒されることが多くて毎日が楽しい」と嬉しそうだ。1Fの「藤」ホームは、利用者の身体的機能がそれ程活発でなくなりつつあるにも関わらず、昨年より明るく楽しそうな空気を感じた。利用者とお世話をする人という関係ではなく、人と人の対等な立場でのコミュニケーションがとれている事。人間の外側の壁を取り払った「素」の状態で、お互い笑い合い、お喋りし合うのを楽しんでいる事。色々な条件が入り交じって今日のような楽しい時間が生み出されているのだろう。開設して1年程の2Fの「桃」ホームは、それぞれにしっかりと自分を持ち、ユニークな人の集まりのようだが、「その人の長所をきっちり見つめ、短所もよく把握して良いところを大切にしていこう」とする管理者に応援の拍手を送りたい。個性的な一人ひとりにたっぷり時間を取って、その人が納得のいくお付き合いができる状況になるまでは、まだ時間が足りないかも知れない。どうか焦る事なく、今の努力を継続して欲しい。

このグループホームは、整形外科医院が核となって、多くの併設施設が同じ敷地内にあり、お互いの協力関係を得る事ができるというメリットを持つ。特に医療面における安心、安全は、本人・家族そして職員も強く感じているに違いない。グループホームでの集団の生活が著しく困難と推測されるような事例についても、ぎりぎりの状況まで試行錯誤を繰り返し、職員はその間により良いケアの方策を見つけていくという努力を、実に丁寧に続けている。他施設で、「その人らしさ」どころか「人間らしさ」まで失いかけていた人を、このグループホームのより手厚いケアで回復させている。このような事実を世間一般の人が知り得ていない事こそ残念だ。病人になってしまっていた人を「普通の生活者」として笑顔を取り戻しているこのホームの底力は、本当に素晴らしいと私は思う。

特に改善の余地があると思われる点

(1) 開設して間のない現在、もうすでに理念として掲げてある「医療と介護と地域の融合」は着実に前進していると思う。一大行事の夏祭りを成功させ、それを核として日常的なつながりを草の根的に増やし、人が始終出入りしているようなホームを目指して頂きたい。

(2) 発語が少なくなったり意思表示の弱い利用者も増えてきているようだが、今は、未だ本人から情報を得る手段が多く残されていると思う。今の内に出来る限り多くの「本人の声・訴え」を書き留めておきたい。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…特に自主評価項目としては挙げてはいないが、毎月のユニット毎の小目標をより具体的にしていき、その都度きちんと評価し合う事が積み重ねられていくな、ホームが目指す理念により近づいていこう。</p> <p>2、全体的に見て…「自分が入りたいと思えるようなホーム・自分の親を入れてみたいと思えるホーム・他人と身内の区別なく、一人ひとりしっかりと向き合ってお付き合いができるホームを目指す。その日・その時が真剣勝負」と語る管理者。「医療と介護と地域の融合」を目指して築き上げた代表者の思いも、「入居前は表情もなかった母に、人間らしい生き生きとした表情が…」と喜んで話す家族の気持ちもぴったりと一致していて、開設して2年少々とは思えない位の成長を見せてもらった。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…改善ではないが、利用者の状況によっては全く鍵をけない生活や、出たい時に自由に出入りしてホーム外を楽しむ支援を多くしたいという願いは、慎重になり過ぎないように少しずつでも挑戦してみたい。</p> <p>2、全体的に見て…必要に応じてユニット間の行き来、敷地内の併設施設利用及び散歩、畑や花壇の手入れ等、居室やリビングルーム以外にも活動の場や気分転換の場がある。こういった内部の関係者同士だけの交流に止まらないで、今後地域の交流が少しずつ広がっていけば「枠の内だけの交流」が「地域の暮らし」に近づいていこう。焦る事なく一つ一つ枠をはみ出して行って欲しい。社会に参画するチャンスも無理のないものから見つけていきたい。地域社会の人達や家族に相談してみてもどうか。年取ったり、動けなくなっても「社会の中の私」を見続けたいと思う。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…本人の希望の聞き取りや把握について、今後も力を入れて支援したいという話には心から賛成したい。本人からの聞き取りについても「万事休す」所まで粘って欲しい。この努力の過程が財産となると思う。</p> <p>2、全体的に見て…車椅子で入居した人がここで主婦している・放尿や失禁があり這って移動していた人が、排泄パターンの把握により改善され歩けるようになる。何かに取りつかれたように外を歩き回る人に、とことん付き合っ今は少し自分を取り戻している等、スタッフの気長く粘り強い取り組みで多くの改善事例を見る事ができた。変化していく本人を見つめる家族の気持ちがよく伝わってくる「たより」も読んだ。さんのある言動に対して、その原因をつきとめようとするスタッフの推察力・コミュニケーション力がその人の本来持っている力を蘇らせたり引き出したりしているのだろう。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…改善項目ではないが、今日の午後、このホームでは基本的には食事作りをしないので、そのマイナス面を補う意味もあって、おやつ作りを楽しんでいた。この試みは是非回数を増やし、家族や地域の人達との交流等に使ってみても良いのではないと思う。</p> <p>2、全体的に見て…「このホームに入居された方に対しては、例えどんな困難な状況になろうとも、私達の力の限り受け入れるよう最善を尽くす」という、非常に硬くて強い意志のようなものをこのホームから感じ、家族の立場から見ればありがたい気持ちでいっぱいになる。しかし、将来を見通したターミナルケアに対するディスカッションやリスクマネジメントについての意見交換もしながら今からチャンスを捉えて準備しておく事は、「一生懸命に今を頑張る」と同時に大切なことではないだろうか。問題発生の前に、サービスの質を向上させる手立てとなると思う。</p>		